

会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和8年度第1回宮古市市民自治推進委員会を次のとおり開催しました。

令和8年8月7日

宮古市市民自治推進委員会

- 1 開催日時
令和8年7月18日（土） 午後1時30分～午後5時30分
- 2 開催場所
宮古市市民交流センター 2階 多目的ホール
- 3 議題
 - (1) 参画・協働の実施状況について
 - (2) 令和7年度実施事業の評価について
 - ①令和7年度実施提案事業の実績報告に係るプレゼンテーション
 - ②令和7年度実施元気な地域づくり補助金タイプ2活用事業の実績報告に係るプレゼンテーション
- 4 会議の概要
別添のとおり
- 5 問い合わせ先
地域振興部地域づくり推進課市民参画推進係
電話0193-68-9080

令和8年度第1回宮古市市民自治推進委員会 開催結果

1 出席者（10名）

- ① 昇高茂樹委員長 ② 澤田優美委員 ③ 山崎一美委員 ④ 本多政彦委員 ⑤ 澤田亮委員
⑥ 佐可野瑞穂委員 ⑦ 佐々木優委員 ⑧ 門坂知実委員 ⑨ 佐々木聡子委員
⑩ 中村なつみ委員

2 欠席者（5名）

- ① 畠山兼委員 ② 川口大嗣委員 ③ 外館織絵委員 ④ 川上寿恵委員 ⑤ 島崎育委員

3 事務局出席者（4名）

- ① 地域振興部長 褒岩邦行
② 地域振興部地域づくり推進課長 柗家真由美
③ 地域振興部地域づくり推進課副主幹兼市民参画推進係長 小林亜由
④ 同係 主事 船越七海

4 発表者（15名）

《提案事業》

No.	事業実施団体	担当課	団体出席者	担当課出席者
1	銚ヶ崎元気市の会	商業振興課	中村 なつみ	山崎 陽介
2	NPO 法人みやっこベース	学校教育課	早川 輝	武田 啓佑
3	NPO 法人みやっこベース	企業立地港湾課	早川 輝	乙戸 美沙子

《元気な地域づくり補助金》

No.	事業実施団体	出席者1	出席者2	出席者3
1	宮古市大通商店街・飲食店街振興組合	太田 昭彦		
2	WARADUKA	前田 宏紀	中島 勝也	
3	たろう大漁まつり実行委員会	前田 宏紀		
4	宮古市で交響曲を演奏する会	梅村 圭一		
5	和井内区	田越 克之	山口 正子	
6	津軽石郷土芸能団体協議会	舘下 光利	野崎 政博	佐々木 勤
7	みやこ/まちづくり研究会	山口 正伸		

5 傍聴者 なし

6 議事等

(1) 参画・協働の実施状況について

⇒資料に基づき事務局から報告。質問・意見等なし。

(2) 令和7年度実施事業の評価について

①令和7年度実施提案事業の実績報告に係るプレゼンテーション

⇒評価資料1に基づき評価方法について事務局から説明。その後、事業実施団体及び担当課より実績報告に係るプレゼンテーションを実施。各委員からの質疑応答を受け、評価を実施した。※プレゼンテーション内容は省略。次のとおり意見・質疑を受けた。

②令和7年度実施元気な地域づくり補助金タイプ2活用事業の実績報告に係るプレゼンテーション

⇒評価資料2に基づき評価方法について事務局から説明。その後、事業実施団体より実績報

告に係るプレゼンテーションを実施。各委員からの質疑応答を受け、評価を実施した。
※プレゼンテーション内容は省略。次のとおり意見・質疑を受けた。

質疑応答内容

質問・意見	回答
《提案事業》 【「鉾ヶ崎に賑わいを!!」港町鉾ヶ崎地区の賑わい創出事業】 (委員) 軽微な委託料とは具体的にどういった内容か。 (委員) 開催場所である鉾ヶ崎地区は津波による被害の心配がある。現在、来場者の大半は鉾ヶ崎地区以外の方が多い。そのことから、津波発生の際に、車で避難をする来場者が多いのではないかと考えられる。どのように避難させるかが非常に重要。有事の際に、多数の車で来場者を迅速に避難させることができるのか。 (委員) 出店者のハードルを下げるために、令和7年度はバザーを実施したとあるが、出店者はどのくらい増加したか。 (委員) 5年目を迎えることを踏まえ、来場者数の推移はどのようになっているか。 (委員) 出店者にとって、参加する意義や、やりがいのあるイベントになってきていると思う。引き続き頑張ってもらいたい。	(鉾ヶ崎元気市の会) 会場駐車場及び横断歩道に警備員を配置している。歩行者天国での実施のため、車両が会場に侵入できない場所についても、警備員を配置している。警備員の人数により金額が増減する。 (鉾ヶ崎元気市の会) 鉾ヶ崎元気市の会事務局員が複数人、会場に常駐している。事務局員には常日頃から避難場所の共有をしている。警備員を減らすことによって避難が滞る心配もあるが、きちんと対応できるよう、有事の際の行動は事務局内で共有している。最近、地震が増えていることから、今一度、有事の際の対応について次回開催前までにもう一度事務局内で確認したい。 (鉾ヶ崎元気市の会) 前回までは事業者しか参加できなかったが、今回から一般の方もバザーに出店できるという旨を周知できた。今現在、参加人数が増加したという実績はないものの、今年度の活動を通じ、参加者が増えるよう周知を継続して行う予定。 (鉾ヶ崎元気市の会) 5年前のはじめて開催した際は、コロナ禍の時期で、県内外においてイベントの実施が少なかったこともあり、数少ないイベントであったことから、最大8000名の来場があった。近年は、2500～4000人というところで推移している。このことから、5年かけて増加しているというよりは、安定してきていると感じている。出店者の売り上げについては増加傾向にある。

(委員) 報告書の中で、何月何日に何を実施したのか明確に書かれており、実施団体と担当課とで協働していることがよく伝わった。 アンケートデータの回収方法はシールアンケートと思うが、来場者のうち何人がアンケートに回答しているのか(回答率・回答数)。 (委員) 収入の実施主体負担金が減額したことについて、見方によっては出店者が少なかったという心配があるのではないかと。どういったことが減額の要因と考えられるか。 【こどものまち「みやっこタウン」の開催】 (委員) スタッフ人件費について、事業統括スタッフ・パートスタッフはそれぞれ何名で実施しているのか。また、ボランティアスタッフもいるのか。 (委員) 3名の人件費について、記載されている日数は、事業に関わった日数か。また、スタッフは他の事業も兼務しているのか。 (委員) 昨年度お願いした「障がいのある子どもが参加しやすいように」といった点において、今回取り組んでいただき、とてもうれしい。 参加した障がいのある子はとても素敵な体験をすることができたと思う。また、障害のある子をサポートした子にとっても、学びのある体験だったのではないと思う。今後も継続して欲しい。	(鉾ヶ崎元気市の会) 参加者には高齢者も多いことから、LINE や SNS 等 は利用せず、シールアンケート形式で実施した。2500 名のうち 150 名の方から回答していただいた。反省点は、アンケートを一つのテントで実施し、ボードの裏表にアンケートを設置したが、裏側のアンケートに気づかない方も多く、回答が偏ってしまった点。全てのアンケートにご回答いただけるよう、事務局として実施方法を改めて検討し、より多くの方のご意見を取り入れられるようにしたい。 (鉾ヶ崎元気市の会) 40 店舗ほどの出店者を見込んでいたが、今年度は平均 30 店舗の出店となった。このことから、出店者からの収入である出店料について、当初見込んでいた金額よりも少なくなってしまった。市の開催が他のイベントと重なったことも要因と考えられる。今年度は可能な限り他のイベントと重ならないような工夫をしたい。 (NPO 法人みやっこベース) 人件費として計上しているのは、事業統括スタッフ 2 ヶ月が 1 名、7 ヶ月が 2 名、ボランティアスタッフが 2 名となっている。ここには掲載していない、多くのボランティアスタッフも事業に参加している。ボランティアスタッフとしては、開催 1・2 週間前には大学生が応援に、当日は高校生・大学生に来ていただいた。 (NPO 法人みやっこベース) そのとおり。他事業についても兼務している。
--	--

(委員) 一昨年度は市長が、昨年度は議員が誕生したという事だが、それぞれの仕事に係る説明は、スタッフが行ったのか。	(NP0 法人みやっこベース) 市長・議員の仕事に係る説明はスタッフが行った。それぞれに立候補するには、みやっこタウン内にある大学で「まちづくり」という授業を受講する必要がある。立候補する子供一人一人に学生のサポートが付き、一緒にまちをどのようにしたいかマニフェストを考えるなどしている。
(委員) 今年度から宮古市が主催ということから、地方議員の役割についてしっかり説明することも重要だと感じる。子ども達にとって楽しく学ぶことができ、キャリア形成に繋がれば、更に良い事業になるのではないかな。	(NP0 法人みやっこベース) 今年度より宮古市教育委員会の委託事業となり、選挙管理委員会や議会事務局ともコミュニケーションを図っている。きちんとした形でみやっこタウンにおける選挙や議会運営にご協力いただける良い流れができたのではないかと認識している。
(委員) 300 人規模での実施がされてきたが、今年度以降も同規模での実施を予定しているか。	(NP0 法人みやっこベース) 今年度も定員を、小学生 150 名、中学 1 年生を 30 名としていることから、概ね同規模での開催を予定している。
(委員) 現状解決すべき課題に記載されている「自己肯定感の低さや精神的幸福度の低さが問題になっている」とあるが具体的にどういったことか。	(NP0 法人みやっこベース) 宮古市に限った話ではなく、「自分のいいところではなく悪いところが目に付く」であったり、「それによってあたらしいチャレンジができない」であったり、様々あると思う。挑戦や、わからないところに飛び込んでみるのが、自己肯定感に繋がるのではないかと考えている。自分で自分の人生をよくしようとする挑戦心などが、この事業を通じ育まれていけばよいと考えている。
【企業の魅力を調査・発信する「取材型」インターンシップ事業】 (委員) 定員に対しどのくらいの人数の応募があるのか。また、応募人数によってはお断りするケースもあるのか。 (委員) 学生が作成した記事については、どの程度事務局において確認や添削を行っているのか。また、記事と事実の齟齬があるかなど、参加企業へ記事の確認を行う場合、どのようにやり取りを行っているか。	(NP0 法人みやっこベース) 今回は、定員をオーバーしお断りすることはなかった。定員は 1 社につき最大 2 名で、合計 16 名。今回は 9 名の参加となり、1 社につきおよそ 1 名の参加となった。エントリー数は 9 名よりも多かったものの、個々のスケジュールの関係でキャンセルになることもあった。 (NP0 法人みやっこベース) プログラムとしては 8 日間程度のプログラムであり、取材が 3 日間、記事を作成するのが 2 ～ 3 日間といったタイトなスケジュールで行っている。記事を作成する期間が短いことから、プログラム終了後には、事務局と学生とで連絡を取りなが

(委員) オンライン上に企業情報を掲載するノウハウがない場合や、人員を割くことができない企業にとって、仲介を行う事業があるのは宮古の企業にとってありがたいことだと思う。ぜひ、今後も継続して欲しい。 (委員) 事業概要に「U・I ターンや地元就職を促進する」といった内容の記載があるが、実際にU・I ターンした方はいるか。 (委員) データを取りづらい内容ではあるが、数字で見えてくると、更に良いものになるのではないかな。 (委員) ミスマッチがあったことについて、学生はどういったところを希望していたのか。また、宮古ならではの企業を対象にすることはできるのか。	ら、学生に記事の加筆や修正を行ってもら。文章を書くことが得意な子、不得意な子それぞれいることから、文章の全体的な構成や、読者への伝わりやすさなど、一般的な視点で修正する場合もある。最終的に記事を企業に確認してもらい、誤った表現がないか確認してもらおうようにしている。ほとんど修正はないものの、専門的な言葉などの修正はそのとおり行っている。プログラム終了後、1～2か月後に記事をアップすることとなっている。 (NPO 法人みやっこベース) U・I ターンを目指しつつも、その前段である情報発信を進めるというのが本プログラムの目的と認識している。学生自身に、宮古市の企業の魅力を知ってもらうことに加え、プログラムを通じて作成した記事を読んだ他の学生や宮古市の高校生の将来的な選択肢になればよいと考える。記事を読んだことでU・I ターンに直接つながったということが見えづらい状態にあるため今後も工夫が必要と考えている。記事を見て就職をしたという話を企業からも聞いている。全ての企業に確認できている状態ではないが、ある程度、効果はあったのではないかと認識している。 (NPO 法人みやっこベース) 企業の選定については、担当課において行っている。宮古ならではの企業はもちろん、採用活動に積極的な企業や、それぞれの企業の状況に併せて選定を行っている。学生自身が大学で学んでいて就職を希望している分野と、参加企業の分野とでミスマッチがあった。希望する業種や分野について、決まっていない学生も多く、建設業や医療・介護分野を希望していない学生もいた。参加学生の中には、取材を通して、情報収集をして情報発信を行う力を養いたい学生や、就職活動をするにあたって視野を広げたいといった学生もあり、前
--	--

(委員) 事業実施主体負担金の予算額より決算額が減額していることについて、どういったことが理由か。 (委員) この事業は、事業の蓄積が非常に重要と考える。今後、幅広い業種の中から、多くの企業に参加していただくための働きかけについて、展望を教えて欲しい。 (委員) 私たちが思っている以上に、現代は、就活におけるインターネットの活用が進んでいる。最近の学生の就活は、雑誌やハローワークなどではなく、インターネットで完結する傾向にある。そういった事を踏まえて、目的を達成するためには、取材型インターンシップが増え、多くの情報がインターネット上に上がることが前提となってくるのではないか。このことから、積極的でない企業にどのようにアプローチするかが重要と言える。引き続き頑張ってもらいたい。	向きに取り組んでいた。 (NP0 法人みやこベース) 定員よりも少ない人数の参加となり、旅費・交通費が減ったことから、その金額分減額となった。 (商業振興課) 令和8年度事業が4年目ということで、既にお声がけさせていただいた企業も多数ある。宮古ならではの業種であれば、金型関連企業などを誘致している。しかし、時期的に受け入れが難しい企業や外部に公開できない情報が多い企業がある。宮古市の金型関連企業は多くの電子機器に使用される部品を生産しており、身近に感じられる業種だと認識している。このような、見て欲しい企業が多くあるものの、担当課としての思いと、公開が難しい企業の間でギャップがある。現在、様々な方法で、宮古の企業の魅力を発信する策を検討している。企業立地港湾課として、市内高校生を始め、市内の大人、子供、市外の人々に、宮古市の企業がどういった仕事をしているのか知ってほしい。目的であるU・Iターンに繋がることはもちろん、「この企業はこういった事をしていたんだ。」といった発見の機会になってほしい。幅広く、多くの企業にお声がけさせていただいている中で、この事業のことを始めて知る企業もあり、情報発信が不足していたのではないかと認識している。様々な機会を通じ多くの企業が魅力を発信できるようなツールになればよいと考えている。
--	--

《元気な地域づくり補助金タイプ2》 【宮古市大通活性化事業】 (委員) 事業実施前と実施後とで何か違いはあったか。 (委員) 当日の集客人数に 200 人と記載されているが、カウントはどのように行っているのか。 (委員) このような事業があることを初めて知った。中心市街地の活性化に大切な事業だと感じる。しかし、こういったイベントの情報は中心市街より離れた地域には届きにくい。限られた予算の中ではあるが、そういった場所にもポスターを設置するなどして周知して欲しい。 (委員) Instagramアカウントはこのイベントのために開設したものか。 (委員) 現在、そのアカウントは稼働していないのか。 (委員) あんなに大通りが賑わったのは初めて。宮古市の大通りを中心とした飲食店は、他の市町村に比べてコンパクトな店舗が充実しており、外貨を稼ぐことができるような飲食店街であると思う。ぜひ、これで終わることなく、充実したものにしてほしい。 (委員) 報告資料には「今後も地域経済の活性化を継続」とあるが、今後の展望はあるか。また、今後は補助金を活用しない方法を検討しているのか。 【おらほの夏祭り 2025(おらほの復興花火大会)】 (委員) 今後も打ち上げ花火に特化して継続していきたいと記載がある一方、課題には「花火以外のイベントが無く会場が盛り上がり欠けた」と記載されている。現時点で、どんな花火以外のイベントを想定しているか。	(宮古市大通商店街・飲食店街振興組合) 当初の予定よりアーティストの参加人数が減った。 (宮古市大通商店街・飲食店街振興組合) 目視で確認した概ねの人数になる。 (宮古市大通商店街・飲食店街振興組合) 今後は、新里・川井地区への設置も行いたい。 (宮古市大通商店街・飲食店街振興組合) そのとおり。 (宮古市大通商店街・飲食店街振興組合) していない。 (宮古市大通商店街・飲食店街振興組合) そのとおり。事業内容については検討中。 (WARADUKA) ゲストを招待しての音楽イベントを検討している。打ち上げ花火までの時間を楽しんで欲しいと考えている。
--	---

(委員) 多数の来場者があることから、楽しいイベントを同時開催するなど、継続して頑張してほしい。	
(委員) 「本当に地域に必要なのか確認しなければならない」や「祭の転換期に入っている」と記載があるが、具体的にどういったことか。	(WARADUKA) 田老唯一の花火大会であることから、花火の実施は今後も継続したい。協賛金もいただいていることから、ある程度地域の方々からはご理解いただいているのではないかと。また、転換期については、運営人員の年齢が全体的に上がり、仕事などでなかなか参加できない方が多く祭が簡素化しており、課題であると認識している。
(委員) 協賛は田老地区の方々をお願いしているのか。	(WARADUKA) 概ね田老地区でお願いをしている。
(委員) 田老地区以外からの来場者にチラシなどを配り、来年度の協賛金を集めてはどうか。	(WARADUKA) 翌年度の協賛に向けての取り組みとしては、3・4年前から、田野畑道の駅や岩泉道の駅周辺などに営業を行っている。来場していただける県内の方々のもとに足を運び、継続して宣伝を行ってきたい。
(委員) 令和7年度審査会の付議事項として、SNSの活用が挙げられていたが、実際に、どのようにSNSの活用を行ったか。	(WARADUKA) インスタグラムの登録と宣伝を行った。当日、花火の空撮をアップする予定だったが、手続きの関係上行う事ができず、地上からの撮影を行った。今年度は、昨年度撮影した写真を広告として活用し、手続きが完了できれば空撮を行いたい。
(委員) Instagramのアクセス数について把握しているか。	(WARADUKA) 詳しくは把握していないため、確認する。 (後日回答：記事に対するアクセス数は約50回)
(委員) ふるさと納税の活用を検討しているか。	(WARADUKA) 花火の目的を勘案し、地元の風物詩としてのイベント規模を想定しているため、現在は着手していない状態。
【復興たろう大漁まつり】	
(委員) 当初お呼びする予定だった歌手が変更になった理由は何か。	(たろう大漁まつり実行委員会) 歌う際の設備が整わなかった。また、イベント出演にあたってスタッフなど人員が増えることから、旅費の面で断念することとなった。
(委員) 大漁祈願と五穀豊穡のお祭りであるが、イベントの	(たろう大漁まつり実行委員会) 食べ物を粗末にしているといった事ではない。地元

中に「早食い」がある。どういった経緯で早食いを行う事になったのか。 (委員) 令和8年度は事業実施しないとのお話があったが、実施しない理由については、人員不足によるものか。 【第60回「音楽のタベ」】 (委員) シャッター街について、「音楽に携わっている者として、活性化を図りたい」と報告書に記載されていることから、市民交流センターで実施したことは、認識している課題に即しており、とても良かったのではないかと。多くの方に聞いていただけたのではないかと。 (委員) 旅費について減額した理由は何か。 (委員) 入場料無料での実施は、市民交流センターで実施したことによるものか。市民文化会館で実施する場合には有料で行うのか。 (委員) 実績報告書からは成果が見受けられなかったが、どういった成果があったのか。 【和井内区文化公演会】 (委員) 前売り券の受付を和井内ふるさと会館にて行ったと記載されているが、勤務している職員が会館に常駐し対応していたということか。 (委員) 開催時間はどのくらいか。また、後継者育成の取り組みはあるか。	のお菓子を使用した楽しいイベントということで、五穀豊穡とは線引きをしている。 (たろう大漁まつり実行委員会) 地元の方の参加が少ないのが現状。補助金については事業費の10分の9の補助となっている。そのため、10分の1の自己資金を準備する負担が大きい。また、食糧費について補助がないことについても負担が大きい。 (宮古市で交響曲を演奏する会) 交通費に係るチケット購入をネットで払い、割引などを利用している。 (宮古市で交響曲を演奏する会) そのとおり。 (宮古市で交響曲を演奏する会) 初めての制約のある会場で実施できたこと。多くの来場者が音楽を聴き癒されて帰られたこと。 (和井内区) そのとおり。 (和井内区) 12時から14時30分までの開催となっている。後継者育成については、区の各部落(5部落)から2名ずつ人員を配置している。 (和井内区) 若者にも少人数ではあるが参加してもらっている。しかし、子育てや仕事が忙しく、毎回参加できる訳では無い。他は60代70代で構成されている。
--	--

(委員) 値上げを検討しているようだが、周囲の声など、感触を教えて欲しい。 【津軽石郷土芸能祭事業】 (委員) 事業に期待される効果として、世代間交流の活性化が挙げられているが、実際どのような成果があったか。 (委員) 金浜・高浜からの来場があったとのことだが、ポスターの掲示はどの程度行ったか。 (委員) 津軽石地区は郷土芸能が盛んであると認識している。後継者育成が非常に大変だと思う。子ども達の多くは部活や習い事などでなかなか集まりにくいのではないか。 【第3回みやこまち音楽祭】 (委員) 集客人数のカウント方法はどのように行っているか。 (委員) ボランティアを集めるコツなどはあるか。 (委員) 補助金以外の財源確保に向けて、カラオケの開催など行ったようだが、今後の見通しはあるのか。 (委員) 今後の展望として、関連グッズの販売とあるが、何か検討しているものはあるか。 (委員) 事業を定性的・定量的に評価をするといった事につ	(和井内区) チケット料金について、チケットを売る際に、もっと高くてもよいといった声もあることから、多くの方に喜んでいただけているのではないか。 (津軽石郷土芸能団体協議会) 老人施設への訪問を行いたかったが、できなかったことから、当日会場に来ていただいた。子ども達も施設の方々に一生懸命演舞をしていた。また、郷土芸能の伝承の必要性を感じ、自主的に活動を手伝う子供たちが増えてきたと感じる。 (津軽石郷土芸能団体協議会) 50枚程度の掲示を行った。川井・新里総合事務所にもお届けした。 (津軽石郷土芸能団体協議会) そのとおり。 子ども達は子ども達のやりたいことがあり、なかなか参加してもらえず歯痒い思いをしているのが現状。津軽石小学校では57年前から現在に至るまで、さんさ踊りを実施している。保育園についても、実施しており参加していただくこともある。 (みやこ/まちづくり研究会) 各会場にてカウンターで計測を行っている。各会場の合計人数が8,300人。 (みやこ/まちづくり研究会) つながりが広まりボランティアが増えた。無理に集めたというわけではなく、趣旨に賛同していただいた方が自然と集まった。 (みやこ/まちづくり研究会) 今回は団体からの参加費は徴収しなかったことから、次回からは団体からも参加費を徴収し、安定財源の確保に努めたい。 (みやこ/まちづくり研究会) みやこまち音楽祭のキャラクターであるカモメを活用したグッズ制作を行う予定。 (みやこ/まちづくり研究会) 定量的評価については、参加人数を指標として考え
---	---

いて、現在どのような指標を検討しているか。 (委員) 会場の場所が、多くの人にとって参加しやすく、成功の要因だったのではないかと認識している。「いつもここでやっている」という認識が広まれば、より一般の方々も参加しやすくなるのではないか。また、涼める場所の設置を検討して欲しい。 (委員) 他の市町村の音楽フェスを参考にしているのか。	ている。定性的評価について、地域愛の醸成というものを数値で表すのはなかなか難しいため、スタッフの人数や参加が増えることで、量れるのではないかと考えている。 (みやこ/まちづくり研究会) 次年度以降、熱中症対策が必要だと認識している。 (みやこ/まちづくり研究会) 今までに見てきた様々な音楽フェスを参考にしている。
---	--